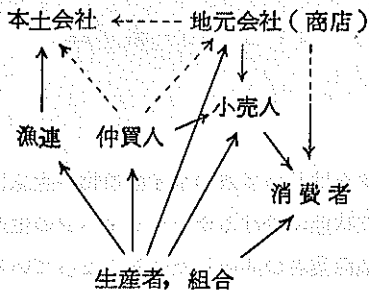


# モズクの仕入、生産及び販売の調査

奥原 哲夫

## 1. モズクの販路



第1図 モズクの販路予想図

沖縄で生産されるモズクの販路は第1図のようになっているものと思われるが、生産者の販売形態は一定しておらず地域によって異なっている。

まず、イ、組合をとおしての販売、ロ、直接漁連、仲買人、地元会社、小売店への販売、ハ、イ、ロ併用の販売等があるが、生産者が直接消費者へ販売するのは量的に非常に少ないようである。又、漁連のモズク買上数量は比較的に多いとはいえず、多くは地元会社及び仲買人で買取られているものと見られる。そして小売人は生産者や地元会社から仕入れるよりも多くは仲買人から仕入して販売しているようである。

## 2. モズクの小売価格

販売方法	価格	1日の売上数量
ビニール袋600g詰	200円	10～30コ
ビニール袋500g詰	100円	0～1コ
ビニール袋600g詰	200円	0～7コ
ビニール袋400g詰	80円	5～6コ
ビニール袋600g詰	100円	5～6コ
ビニール袋600g詰	100円	3～5コ
ビニール袋500g詰	100円	3～4コ
ビニール袋600g詰	150円	1～2コ
ビニール袋600g詰	200円	0～5コ

第1表 モズクの小売価格と1日の売上数量

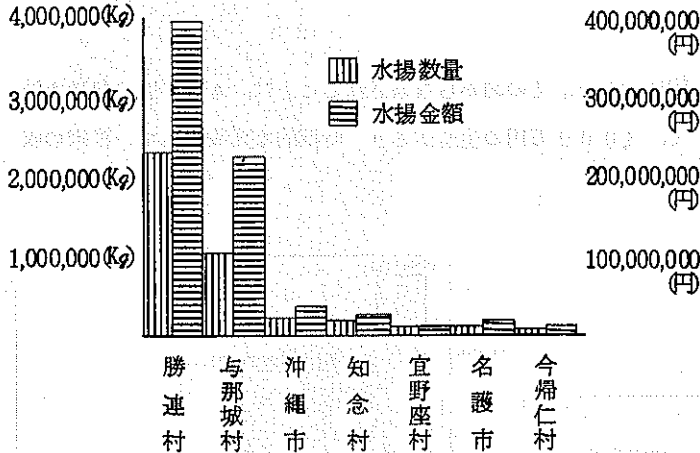
モズクはビニール袋に詰めて売られているが、その小売価格は一定していない。例えばビニール袋600g詰の小売価格で200円、150円、100円といったように価格に差があり、又、ビニール袋500g詰を100円で売っているところがあれば、ビニール袋400g詰を80円で売っている小売店もあつたりして、モズクの価格がいかにか一定したものでないかを示している。しかしビニール袋600g詰を200円で売るよりは100円で売った方が多く売れるかというわけではないうようである。全般的に見て小売されるモズクの量はそう多いとはいえず、一番よく売れた日でビニール袋600g詰(200円)で30コであつたがこれはまれである。

## 3. モズクの仕入

那覇市内の小売店で売られるモズクは、ほとんど農連市場内でビニール袋に詰めたものを仕入して販売している。中には直接産地から買いとって販売している店もあるが、その仕入価格は一定していない。例えば豊見城村字与根産のモズクでも1缶(18Kg詰)4,000円で仕入するところもあれば、1缶18Kg詰)4,300円で仕入したところもあつた。そこで参考までに昭和48年度の1缶(18Kg詰)あたりの仕入価格を例示してみると、2,400円、3,000円、3,500円、4,000円、4,200円、4,300円、5,000円と一定した価格がないのが察知できる。

#### 4. モズクの生産高

7つの市町村についてモズクの水揚げ高を調査したところ第2図のとおりとなっている。この第2図からすると東沿岸では勝連村と与那城村が他の市町村に比較して多量のモズクを水揚げしているようである。



この両村のモズクの水揚げ高が大きいのは漁場の条件がよいせいもあるろうが、それにもまして多量のモズクを取引できる仕入人があるせいだろうと考える。西沿岸では勝連村と与那城村について豊見城村が多量のモズクを水揚げしているようである。

第2図 昭和48年度市町村別モズクの水揚げ数量と金額